

山口県がん化学療法チーム研修会

『高齢がん患者さんが外科手術を乗り越えて元気に暮らすために～
周術期化学療法，がんリハ，栄養療法などで支援する』開催報告

腫瘍センター事務局

令和4年2月5日（土）に，山口大学医学部附属病院腫瘍センター主催で，山口県がん化学療法チーム研修会『高齢がん患者さんが外科手術を乗り越えて元気に暮らすために～周術期化学療法，がんリハ，栄養療法などで支援する』をWEBで開催しました。本研修は，山口県のがん化学療法の医療レベルの更なる向上を図るために，山口県内のがん診療連携拠点病院を含めた化学療法を行っている医療機関の多職種（医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・リハビリテーション担当者等）によるチーム研修となっており，7施設41名の参加がありました。

当院の永野浩昭腫瘍センター長の開会挨拶に始まり，次いで山口県健康福祉部からの挨拶の後，医師・管理栄養士・看護師のそれぞれの立場からの講義が行われました。

≪講義内容≫

「がん患者とリハビリテーション」

山口大学医学部附属病院 整形外科リハビリテーション部講師 関 万成

「いつまでも食べる楽しみを・・・」

山口大学医学部附属病院 栄養治療部副部長 堀尾 佳子

「高齢がん患者の病棟支援」

山口大学医学部附属病院 看護部（B棟6階西病棟） 村上 梢

各参加施設紹介の後，グループワークの症例提示が，本院の井岡医師からあり，指定された症例について各施設で検討を行いました。多職種で問題点を抽出し，解決策を考え，最後に発表していただきました。研修会全体を通じて様々な意見や質問が活発に出され，参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができました。

参加者からは，「これまでの日々の癌診療（特に外来診療）において栄養士，リハビリとの関わりが今まで少なかったことを認識した。他施設の考え方を伺えることができるとても良い機会だった。」，「グループワークを通して他職種の方の意見を聞くことができ，がん患者にサポートできることが思っていた以上にあることを実感できました」，「術前アプローチを行っていくことが少ないため，他院での治療選択や取り組み方など知り，とても勉強になりました。」など多くの意見が寄せられました。

昨年に引き続きWEB開催による研修会で，当初は4施設20名程度の募集としておりましたが，研修会に参加を希望される施設が非常に多く，7施設41名を対象とした研修会となりました。参加者の皆さまのご協力もあり，大きなトラブルもなく有意義な研修会となり，無事終了することが出来ました。

腫瘍センターでは，これからも医療従事者に向けた様々な研修会を計画していきたいと思っておりますので，皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。